

らくび 製品説明及び取扱説明書

型式：3DHR001

本製品「ハンガー反射デバイス」は、自然な動きを促すことにより、首や肩のリラックスと快適さをサポートすることを目的としています。本製品を頭部に取り付けることで、以下のサポートが期待されます。

1. 痙性斜頸等による首の緊張や不快感の緩和。
2. 寝違いや首の回りにくさを伴う頭痛等による首の痛みや不快感の緩和。

本製品を安全かつ効果的にご使用いただくために、必ずこの「説明書」をよくお読みください。

※ 右記のリンクから、取扱説明動画をご覧ください。



（取扱説明動画）

★ 本製品は医薬品医療機器等法に基づく医療機器や装具ではありません

本製品は、診断・治療・予防を目的としたものではなく、首や肩のリラックスと快適さをサポートすることを目的とした、一般雑貨（ヘルスケア用品）です。

＜製品に関するお問い合わせ先＞



発売元：ハンガーケアー

担当：中田 英雄

電話番号：090-1430-6256

E-Mail：hideo.nakata@hangercare.jp

URL：https://www.hangercare.jp



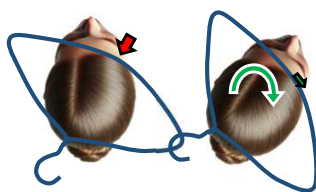
・本説明書に記載の内容は、改良その他の理由により、お断りなく変更する場合があります。

禁忌・禁止

- 1) 本製品の分解・修理・改造などは行わないでください。
- 2) 次のような方は使用しないでください。
 - ・脊椎感染症（骨髄炎、脊椎カリエスなど）
 - ・悪性腫瘍
 - ・急性の強い痛みを伴う場合
 - ・骨軟化症
 - ・幼児、または、意思表示ができない方
 - ・脊髄圧迫症状がある場合
 - ・その他、医師が不適当とみなした方
- 3) 次のような場合は医師の判断による。
 - ・関節リウマチ
 - ・骨粗鬆症
 - ・頸椎の不安定性による頸肩痛の方

反射誘発原理

例えば、右前側頭部の圧迫により皮膚の右向きのずれを生じさせ、頭が右方向に回旋します。



例えば、前頭部の圧迫により皮膚の上向きのずれを生じさせ、頭が頭上方向に引上げられます。

製品仕様

項目	内容
外形寸法・質量	230L×185W×20H 80g
使用素材	・本体：Black Resin ・クッション：EPDM
調整範囲	頭囲：52cm～62cm
※反射誘発方向	・左右回旋方向 ・頭上方向

本品の取り付け方により、反射を左右回旋方向や頭上方向へ誘発することが出来ます。
詳細は、【使用方法】をご参照ください。

使用目的

本製品「ハンガー反射デバイス」は、自然な反射を促すことにより、**首や肩のリラックスと快適さをサポート**することを目的としています。

使用上の注意

1. 必ず、本説明書をよく読み、取り扱い方法等をご理解の上、**正しくご使用ください。**
2. 使用前に、破損・変形亀裂・傷・摩耗がないか、適切に機能するかどうかを点検してください。**破損などがある場合は使用しないでください。**
3. 装着部位の皮膚に異常が生じる可能性がありますので、**30分以上連続して使用しないでください。**
4. 装着後は、最大30分毎に本品を取り外し、再度ご使用になる場合は、**皮膚の圧迫痕が完全に消失してから、装着してください。**
5. 使用回数に制限はありませんが、無理のない範囲でご自身の体調にあわせてご使用ください。
6. 使用中異常を感じた時は、直ちに使用を中止し、**医師にご相談ください。**

形状・構造

【各部の名称】

本体フレーム

固定用面テープ

クッション

サイズ調整部

- ・調整バー
- ・調整ピン
- ・受け穴

使用後は

1. 使用後は、クッション部分を柔らかい乾いた布で**汚れなどを拭き取ってください。**
2. 保管の際は、高温、多湿、直射日光を避けて、**常温下で保管してください。**
高温下では製品に変形が生じる恐れがあります。

使用方法

本品の取り付け方により、反射を左右回旋方向や、頭上方向へ誘発することが出来ます。
以下をご参照いただき、**首の動きに不快感のある方向へ反射が起きるように取り付けてください。**

※ 例えば、左側を向く時に首の不快感や向き難さを感じる場合。

【2-1 左方向へ反射を誘発する】をご参照いただき、本品を取り付けてください。

1. サイズ調整方法



① サイズ調整部付属の面テープを外し、調整ピンを、受け穴から引き上げて外してください。

② 頭にすこしゆるめにはまる程度の大きさに調整してください。

③ 二つの調整バーのピンを受け穴に合わせて嵌め込んでください。→ 一度装着してサイズを確認します。

④ サイズ調整完了後は、調整部に面テープを巻き戻してください。→ 調整部抜け止めとなります。

注) サイズ調整は必ず本品を頭部から取り外した状態で行ってください。破損の原因となります。

2. 取り付け方

【2-1 左方向へ反射を誘発する】

本品を調整バーが後ろになるようにし、頭の上から耳の上ぐらいまでかぶります。



調整部を後ろ側へ

そのまま左側の目の上辺りが圧迫されるまで、右方向へ十分に回し、本品から手を離します。

左へまわる感覚が出現します



【2-2 右方向へ反射を誘発する】

本品を調整バーが後ろになるようにし、頭の上から耳の上ぐらいまでかぶります。



調整部を後ろ側へ

そのまま右側の目の上辺りが圧迫されるまで、左方向へ十分に回し、本品から手を離します。

右へまわる感覚が出現します



【2-3 頭上方向へ反射を誘発する】装着した時、前頭部が適度に圧迫されるサイズに調整してください。



(後頭部側) 調整部を横側へ

前頭部が適度に圧迫されている状態で、前頭部側のフレームを少し押し上げて、本品から手を離します。

頭上方向へ引き上げられる感覚が出現します

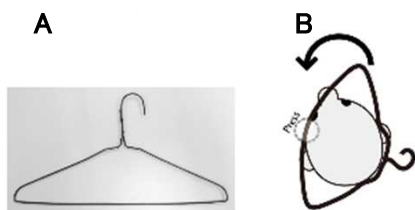


本品を調整部が左側もしくは右側になるようにし、おでこ後頭部に圧迫が掛かる位置までかぶります。

【ポイント】 ①おでこ側に本品の片側を当て押さえながら、②後ろ側を下げ被せるようにかぶります。

ハンガー反射とは

ハンガー反射は、針金のハンガーを頭にかぶり、ハンガーの長辺が前側頭部を圧迫するようにすると頭が自然と回ってしまう現象である。(図1)



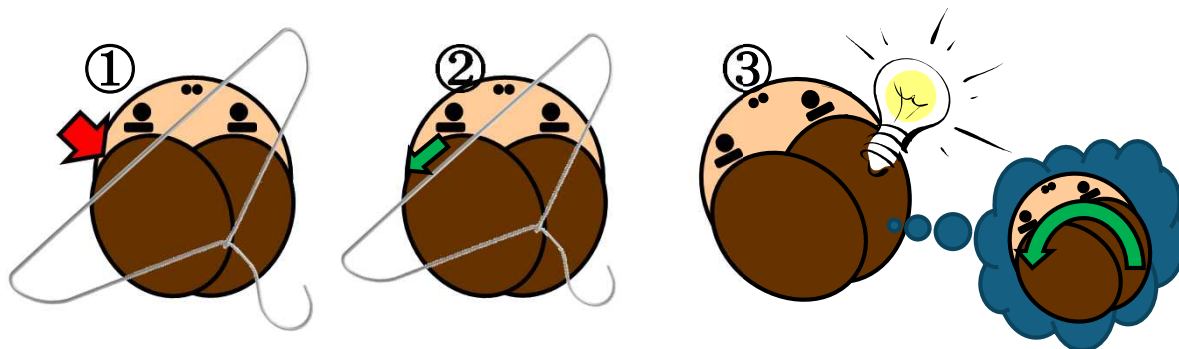
(図1) ハンガー反射

A : ハンガー反射で用いる金属製のハンガー

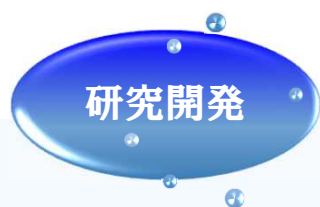
B : ハンガーを少し広げて、前側頭部が当たるように装着すると、圧迫側に回るといった感覚が生じる

この現象が知られるようになったのは、1995年にあるTV番組で放送されたものがきっかけとなる。ある男性が勉強しているときに、ふと針金のハンガーを頭にかぶってみたところ頭が回ったというものであった。この現象が単行本に記載されたことで、2007年より電気通信大学梶本らにより「ハンガー反射」と命名され、研究が始まった。世界に目を向けると、正方形の段ボールを頭にかぶると頭が回り、痙性斜頸患者の症状が改善したという論文が1991年にLancetに報告されており、これは同様の現象と思われる。

金沢脳神経外科病院 脳神経外科部長 旭 雄士



※イラストは、左前側頭部を圧迫しています → 頭が左方向に回ります。



大学院情報理工学研究科 情報学専攻
梶本研究室 教授 梶本 裕之

